

第 2 3 回田村市地域創生総合戦略会議 【結果】

日時	令和 8 年 8 月 2 8 日（金） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 4 0 分
場所	田村市役所 1 0 7 多目的ホール
協議事項	（１）田村市デジタル田園都市構想総合戦略の令和 7 年度事業実績及び令和 8 年度事業実施予定について
報告事項	（１）過疎地域持続的発展計画の令和 7 年度事業実績について （２）新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世代交付金）の令和 7 年度事業実績について

【概 要】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 協議事項
（１）田村市デジタル田園都市構想総合戦略の令和 7 年度事業実績及び令和 8 年度事業実施予定について
＜資料 1 ～ 3 ＞

（凡例：● 委員、■ 市）

基本目標 1 地方に仕事をつくる

（委員）

- 施策 1 中小企業及び小規模事業者支援について、エコノミックガーデニング事業の内容を事前に質問をしており回答をいただいているところだが、関連して 3 点質問させていただく。
①エコノミックガーデニング事業は何年目になるか。
②事業の具現化に向けて設置された合議体、実務者会合からはどういった提案があったのか。中小企業が抱える課題は。
③令和 8 年度に実施する事業内容、予算規模、推進方向について。

（商工課）

- ①エコノミックガーデニング事業は 3 年目を迎えている。
② 2 4 項目の意見をいただいております、例を申し上げますと新卒就職者向け、就労人材確保、補助金制度の周知、経営基盤強化、女性・若年層に対する雇用支援等。
③令和 8 年度の予算規模は約 7, 000 万円。主に市内起業家・経営者のネットワーク構築、事業拡大・商品開発などの支援や、市内製造業の技術の見える化として「田村の匠」の冊子・映像化を実施予定。

（委員）

- 実施事業に対する事業者の反応は。

（商工課）

- 未集計ではあるが、今年度より新たに実施している新規雇用の支援については、良い制度ということで反響があるところ。別途調査により実態を把握し、より良いものにしていければ。

（委員）

- 高市政権となり、成長戦略として 370 兆円を超える投資が行われるが、市としても成長戦略に向けて取り組むものがあれば取り組んでいただきたい。
- 一次産業において、農地面積は変わらないが耕作放棄地が増えている。農業の生産力の推移をデータで示していただきたい。また、食料品の受給率の推移も分析していただければ。
- 足元にある地域資源を理解し活用していることが重要。これが出来ている地域は人を呼び込

む力があるものと考えするため、しっかり取り組んでいただきたい。

(農林課)

- 地域経済、食料需給率に関するデータが手元にないため、この場で回答が出来ないが、ご意見を踏まえ、地域資源を活用していきたい。

基本目標 4 魅力的な地域をつくる

(委員)

- 施策 1 教育の充実について、本日午前中に船引中学校の生徒が森林組合に職場体験に来た。郷土愛、地域のこと、地元のポテンシャルをしっかりと子ども達に伝えられているか、ということを考えさせられた。やりたいことと出来ることは違うことを伝えさせていただき、出来ることをしっかりとやって社会に認められることが大切と伝えた。テストで高い点数を取ることのほか、地域に残る、戻ってくる選択肢を子どもに与えられるような教育を実施していただきたい。
- 参考までに、「地域みらい留学」という制度があり、越境して学校に入る制度がある。一例ではあるが、こういった様々な取組が出来る地域になっていただきたい。

(学校教育課)

- 学校においてはキャリア教育の充実を図っている。総合的な学習の時間で地域愛を育む、郷土を知るという学習を進めている。お人形様やムシムシランドなど、地域にある資源を理解しながら、愛着を高めている。また、教育委員会においては T2 プロジェクトという事業を実施し、将来の職業観や仕事観の考えを深める機会を設けている。様々な社会人の話を聞くことや職場体験を通して、自分にあった仕事はどんなものかを考える機会などを更に充実していきたい。

(委員)

- 市としては授業推進員を設置し、学習理解の早い児童生徒への学習支援を中心としながらも、児童生徒一人ひとりが個別最適な学びを行えるような支援を行っている。自己実現を図るために、生徒が取り組みたい学習に取り組んだり、力を伸ばしていったり出来るよう、学校としてもより効果的な実施につなげていきたい。

基本目標 2 人の流れをつくる

(委員)

- 5 町村に 1 つずつあった観光協会が、4 月に市観光協会として一本化された。市と協働で実施することや市で出来ないことを観光協会で実施するなど、取組を進めていきたい。

(委員)

- あぶくま洞だけ、カブトムシだけで人を呼べるのか。ふるさと納税の返礼品を送るだけで市のサポーターになってくれるのか疑問がある。
自然の豊かさを PR しても現行法においては、多くの人はその豊かさを享受することが出来ない（山に入ってカブトムシを捕まえたり出来ない）状況である。自然は人類共通の財産であり、イギリスは 2003 年に法改正を行い、環境アクセス権を見直して、誰でも享受できるようになった。

特区制度でも良いので、自然に誰でもアクセスできる仕組みが必要。ふるさと納税の寄附者 50,000 人の方に対しては特別なアクセス権を与えるということで交流人口が増えるのではないか。

また、ルールを設けることは必要であり環境リテラシーもつく。アクションを起こしていただきたい。

(観光交流課)

- 自然を活用した交流人口の拡大に取り組む中で、被災 12 市町村が発起人となり昆虫の聖地協議会を設立し、里山保全に取り組んでいる。
- また、市内の昆虫採集場を活用し、昆虫採集ツアーを造成した。今年度、昆虫採集場を追加で整備する予定。

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(委員)

- 都路地区では3世代交流イベントを実施しており、昨年初めて参加した。ご説明いただいた内容を継続していただきたい。

(委員)

- 女性の働く環境の中で、学校の行事やイベントで休む場合があり、両立が難しい。必要な支援としては、同じような境遇の女性の方同士で話し合いが出来る場があると良いのではないか。

(こども未来課)

- 同じ境遇の方が集まり話をするのは大切である。子育て支援センターでは、育児教室などを切り口に、集まった方で情報交換できる取組は行っており、こういった取組を押し上げていきたい。

5 報告事項

(1) 過疎地域持続的発展計画の令和7年度事業実績について

(2) 新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)の令和7年度事業実績について
＜資料4～7＞

(委員)

- タムコンというゲームを作っているとのことであるが、利用者数、効果はいかがか。

(観光交流課)

- タムコンは、タムコンとタムコンランという2つを作成した。利用者数は確認した限り520人であった。一方でプレイ回数が、タムコンは5,474回、タムコンランは1,876回である。ROBLOXという世界共通のゲームであり、自治体で作成している例は少ない。バーチャル世界で田村市を味わってもらおうという趣旨で作成した。
- 効果としては、シティプロモーションに取り組む自治体からの関心はあったところ。

(委員)

- 今年度より観光協会が統合し、市全体で観光振興を進めていく。活動範囲や求められる役割が増えた一方で、事務局を維持する安定した財源が確保されていない。今後、地域創生、観光振興を進めていく上で、観光協会をどのような立ち位置で考えているのか。持続可能な運営基盤の確保についてどのように考えているのか。行政と観光協会の役割分担など、今後の具体的なことは観光交流課と進めていくが、ご検討いただきたい。

(委員)

- あぶくま洞観光拠点整備事業について、未公開部分公開の計画はあるか。
- ふるさと納税について、体験型返礼品の寄附者はどの程度いるか。

(観光交流課)

- 未公開部分は調査中であり、調査結果の公表も検討している。

(財政課)

- ふるさと納税の体験型返礼品であるインセクトツーリズムは、昨年度3本、今年度6本、設定していた本数分はすべて寄附をいただいた。

6 その他

7 閉会